



毎月第3金曜日は、川西市の「人権デー」です！

◆今月は、「識字」について考えてみましょう。

9月8日は、国際識字デーです。



1965年9月8日からイランで開催されたテヘラン会議において、当時のパーレビー国王が各国の軍事費1日分を識字基金に拠出することを提案したのがきっかけです。この会議のあと、アメリカのジョンソン大統領が米国議会に9月8日を「国際識字デー」に定めるように呼びかけ、UNESCOが制定しました。

日常生活で必要な文章を理解して読み書きできる能力を「識字」といいます。識字率は文字の読み書きができる人の割合を指します。日本では初等教育の純就学率は男女ともに100%、そのため識字率についても世界でも上位の水準ですが、世界では識字率が80%に満たない国や地域も多くあります。

2017年時点で文字の読み書きができない人は※約7億5000万人(世界の15歳以上の6人に1人)いることがわかっています。※出典：日本ユネスコ協会連盟公式サイト、ユニセフ「世界子供白書2017」

この問題は、世界でも解決すべき大きな課題として認識されています。持続可能な開発目標として定められたSDGsでもこの教育分野について取り上げており、目標4に掲げられています。ここでは「すべての人々に包摂的かつ公平で質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する」ことをゴールとし、「質の高い教育をみんなに」には、「2030年までに、すべての青年と大多数の成人が男性も女性も含めて、識字と簡単な計算ができるようにする」という目標が定められています。



日本では識字率が99.8%といわれていますが、1955年の調査を最後に公的な調査はおこなわれていません。国は、義務教育修了をもって識字能力ありと判断しています。しかし、現実には、[識字教室][識字学級][よみかき教室]等の文字の読み書きなどを学ぶ教室や夜間中学校が現在も行われています。

川西市でも1978年に[識字教室]が開かれました。1980年に川西市総合センターが開設されてから現在に至るまで、教室で文字を学ぶ人が絶えません。[識字教室]から[よみかき教室]と名前が変わっていましたが、識字教室は決して「消えゆくもの」ではなく、変わりゆく時代状況の変化で、新たな役割を果たそうとしています。

昼間に実施している[よみかき教室かわにし]と夜間に実施している[夜間よみかき教室]の2つには、外国からの居住者がいっしょに学んでいます。[識字教室]の多様化が進んでいるといえます。

[識字教室]での学習者は、文字や言葉を学ぶだけではなく、自らを見つめ直すとともに、学ぶことの喜びを感じ、人として成長していきます。これは、今も[よみかき教室]へと引き継がれています。

「よみかき教室かわにし」毎週金曜日

13:30~15:00

「夜間よみかき教室」毎週金曜日

18:00~20:00

参加申し込み随時可能

受講料無料

問い合わせ:総合センター TEL 758-8398

コロナ感染防止のため
ただ今 休講中!

とくせつじんけんそうだん 毎月第3金曜日
特設人権相談

9月17日(金) 13:00~16:00

川西市役所3階人権推進課または2階相談室で、

人権擁護委員による相談をお受けいたします。

【問い合わせ先 川西市役所人権推進課】

TEL072-740-1150

